



市立成生公民館
小学校前谷地街道
桜の古木



大町から東根荷口に至る幻の集落
「大工寺」跡から望む乱川

天童の始祖 頼直公



頼直公時代年表

- 1333年 鎌倉幕府滅亡建武の新政始まる
- 1336年 里見蔵人義宗 成生庄に入る
- 1338年 足利尊氏 北朝より征夷大将軍任じられ室町幕府を開く
- 1356年 8月6日斯波兼頼 最上郡山形に入部する
8月22日頼直 成生に入る(斯波兼頼の孫頼直が里見義宗の養子になる)
- 1357年 兼頼 現在の山形城に築城
- 1375年 頼直 成生の楯から天童山城に移城 天童氏を称する(天童頼直)
- 1392年 南北朝統一 室町幕府成立
- 1410年 頼直 没す
- 1568年 天童頼久 誕生する
- 1584年 天童頼久 最上義光に攻められ落城
- 1588年 天童頼久 伊達家に仕える

成生の地と天童の始祖頼直公

天童市は、山形県のほぼ中央、やや東寄りに位置し、市の西部には、山形盆地の平野が開け、東部は奥羽山脈、市域の西に沿って最上川が、北部を乱川、中央部を倉津川、南部を立谷川が流れている。

成生は、市の北西部に位置し、乱川の扇状地の扇端に広がり、地理的条件では、成生の語源(物が生成する、物が良く育つ)とおりで、まさに生活していく上では、当時から、すぐれた条件のそろった土地だった為、平安の古から荘園として都まで名が聞こえた豊穡な土地であった。

また、「高野坊」この地は、高野坊遺跡、高野坊清水、三本柳清水、箱清水、など湧水池が存在する、イバラトミヨの生息でも有名である。

今では、幻となった、天童市大町から、東根市荷口に至る地域一帯に、相当の戸数の集落があったと、伝承されている幻の「大工寺」は、里見義宗(頼直の義父)が長兄の為に領内に供養寺として、建立したとされている。

11世紀前半、成生庄は藤原摂関家と結びついて成立していたものと思われる。鎌倉時代は、里見氏が地頭として、二階堂氏に代わり受け継いでいったと思われる。

山形城主斯波兼頼の孫で直家の子である頼直が、成生庄の地頭職であった里見家の養子に入った。里見家には、初め斯波兼頼の末弟である義宗が大崎から里見義景の養子として入り、義宗に男子がなかったため1356年頼直を養子に迎え入れた。

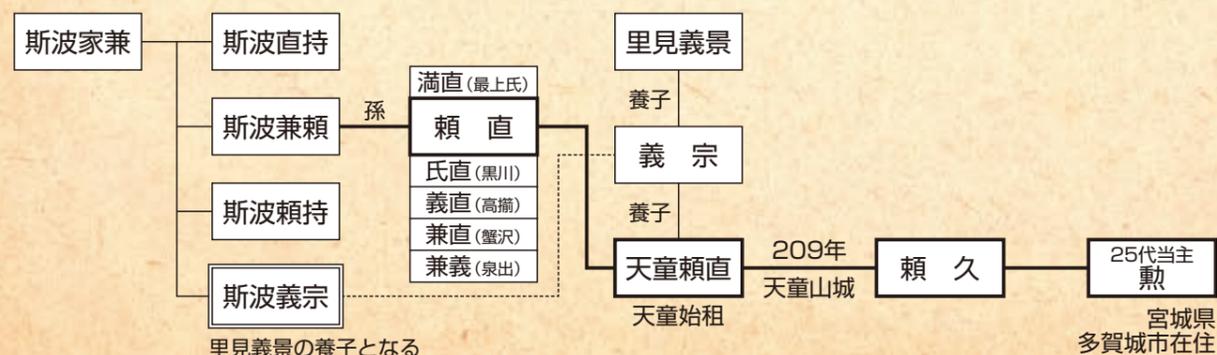
頼直公が、居館した南北朝時代の城館を「成生楯」と称する。楯を中心に村落が形成され、政庁的機能を有するものであり、荘園形成の段階を経て、都市機能を備えていたと考えられる。同時に、城下集落として(上駅、下駅)を整備したと言われ、豊富な水と、豊穡な土地に恵まれ、長い間交通の要衝として機能したものと考えられる。

また、南北朝時代の楯は、軍事施設でもあったため、守護神を四方に祀り、亥の馬場、的場を設け、鍛地場も近傍にあった。

1375年成生楯から、天童の山城に移った頼直公は、山城の防備陣を強化し、山全体が城塞をていし、家臣は半農半士で乱を見ては武装して城に集まった。町並みは整備され、物々交換だった城下町には、沿道沿いに集落が構成されていた。羽州街道が整備された町並みは、原型は頼直公が造られたと思われる。

その後、9代209年、大きな争いもなく、仏教文化が栄え、天童町の発展に尽力された。頼直は晩年、長男の頼勝に家督を譲り、成生楯に戻り、保國寺を建立し念仏三昧の生活を送ったとされている。

斯波氏 里見氏 天童氏系図



成生楯の想定図

